

# 下都賀管内水稲技術資料 No.4

令和3年7月9日  
下都賀農業振興事務所

## 重点ポイント

- ①早植えの出穂は昨年と同程度の見込み！
- ②低温予報が発表された時は、深水管理で幼穂を守る！
- ③穂肥の時期はほ場の生育状態で判断しましょう！
- ④普通植えは茎数が確保されたら、間断かん水へ！

## 1 気象の経過

6月は、平年と比べ気温は高く、降水量と日照時間は多く推移しました。

7月上旬は、平年と比べ気温は低く、降水量は非常に多く、日照時間は非常に少なく推移しました。

表.小山市アメダス

	6/1-30	平年差・比	7/1-8	平年差・比
平均気温	22.2℃	+2.2℃	22.3℃	-1.6℃
降水量	130mm	143%	87mm	183%
日照時間	138時間	126%	4時間	12%

## 2 気象庁の1か月予報（7月8日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 07/10~08/09	30 30 40
		1週目 07/10~07/16	20 50 30
		2週目 07/17~07/23	20 50 30
		3~4週目 07/24~08/06	30 40 30
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 07/10~08/09	30 40 30
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 07/10~08/09	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

気温は平年並み～  
高くなる見込みです。



## 3 早植え・水稲生育診断ほ（7月6日調査）の生育調査結果

7月6日時点の農業試験場では、平年と比べ、草丈は高く、茎数はやや多く、葉齢・葉色は並、幼穂長は昨年同時期並となっています。

小山市の生育診断ほでは、**出穂は7月22日頃（5月3日移植）と予測されます。**

ほ場ごとの差も大きいと思われるので、必ず各ほ場ごとに確認してください。

表.1 水稻生育診断ほ（小山市鏡）の生育調査結果

品種：コシヒカリ 移植日：5月3日	本年 (7月6日調査)	(参考)農業試験場	
		本年	平年値
草丈(cm)	76.3	70.2	70.3
茎数(本/m <sup>2</sup> )	698	574	545
葉 齡	10.7	10.8	11.3
葉色(葉色板)	3.8	3.7	3.7
生育診断値(葉色×茎数)	2,655	2,134	2,027
幼穂長(cm)	0.7	0.14	—

※管内調査地点は5月3日移植、農業試験場は5月6日移植。

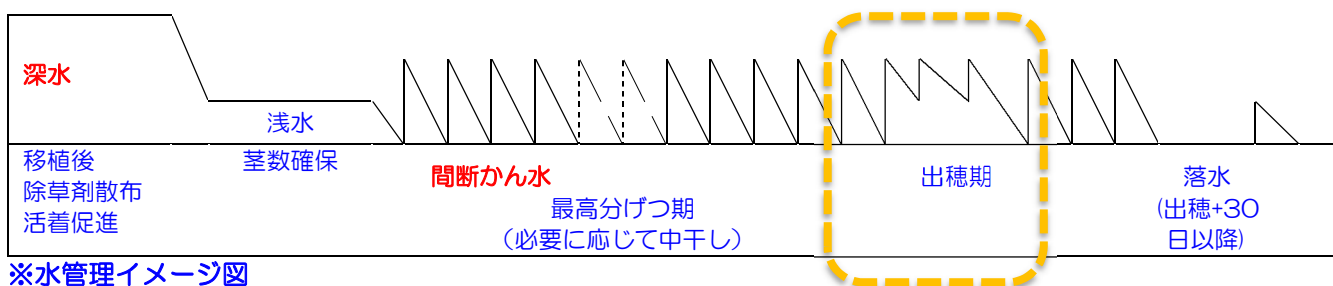
## 4 早植えの栽培管理

### ◎水管理

間断かん水を継続し、根の活力向上に努め葉色の低下を防ぎましょう。

**出穂期は最も水を必要とする時期です。** 不足しないように注意しましょう。この時期に水が不足すると、受精や稔実障害が起き、籾数が減少してしまいます。

**減数分裂期(出穂前14～7日)は最も低温に弱いので、幼穂位置に合わせた深水管理(水深15～20cm)など、低温(平均気温20℃以下、かつ最低気温17℃以下)への対応も想定します。**



※水管理イメージ図

### ◎穂肥

日照不足で曇雨天が続くと軟弱になり倒伏しやすい稲体になる可能性があります。

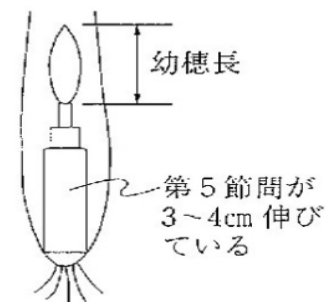
穂肥時期は出穂15日前(幼穂長が2cmの頃。倒伏懸念の場合は10日前、籾数不足が懸念される場合は18日前)に、10a当たり2～3kg程度(BBNK-202号、窒素量の50%は緩効性)を施用することを基準とします。穂肥の施用時期は、**必ず幼穂長で出穂前日数を把握**し、生育診断を実施したうえで決定しましょう。

表 県中南部：早植コシヒカリの生育診断指標値(栽植密度20株/m<sup>2</sup>)

時期	葉色(葉色板)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉色×茎数
出穂前30日	3.9～4.2	470～500	1,850～2,100
出穂前15日	3.6～4.0	400～430	1,450～1,700

葉色が淡く、診断値(葉色×茎数)が指標値以下 ⇒ 出穂18日前(幼穂長が8mm)  
 葉色が濃く、診断値(葉色×茎数)が指標値以上 ⇒ 出穂10日前(幼穂長が8cm)

カッターナイフで  
縦割りました図



出典：「安心イネつくり」  
p66(農文協)

### ～穂肥施用のための出穂前日数の確認の仕方～

- ① 平均的な生育の株を探します。
  - ② 草丈の最も高い茎 1 本を根をつけたまま取ります。
  - ③ 左図のように、カッターナイフ等で稲の茎を縦割りします。
  - ④ 幼穂の長さを確認し、穂肥の施用時期を確認します。
- 例えば、幼穂の長さが  
5mm の場合、出穂前約 20 日  
8mm の場合、出穂前約 18 日、となります。  
生育のバラツキを考え、5 株程度、幼穂の長さを確認してみ  
ましょう。

## ◎斑点米カメムシ

イヌビエやホタルイといった水田雑草や、メヒシバやエノコログサといった畦畔のイネ科雑草は斑点米カメムシ類の**誘引源、発生源、本田内へ侵入するための中継点**となります。高温、少雨の条件下では、発生が多くなることが予想されます。

本田内の除草及び、水田周辺の草刈りを行い、カメムシ類の生息しにくい環境作りを行いましょう。

水田周辺の草刈りは、

- ① 水稻の出穂 2～3 週間前、
  - ② 出穂期頃
- の 2 回行くとイネ科雑草の子実が作られないので効果的です。  
(2 回除草ができない場合は、**出穂期 10 日前まで**に除草をすませましょう！)



アカヒゲホソミドリ  
カスミカメ



クモヘリカメムシ

## ◎稲こうじ病

前年に多発した場合は、**出穂 10 日前まで**に効果的な薬剤を必ず散布しましょう。  
防除適期をはずすと効果がみられないので注意が必要です。

液剤・粉剤…出穂 15 日前  
粒剤 …出穂 2～3 週間前



稲こうじ病

## 5【参考】普通植・水稻生育診断ほ(栃木市皆川城内町)の生育調査結果

品種：とちぎの星 移植日：5月23日	本年 (7月6日調査)	生育診断指標値 (最高分けつ期)
草丈(cm)	52.9	—
茎数(本/m <sup>2</sup> )	502	520~540
葉齢	9.8	—
葉色(葉色板)	5.0	4.5~4.7
生育診断値(葉色×茎数)	2,523	2,500~2,700

## 6 普通植の栽培管理

### ◎水管理

移植の遅れや、苗の老化による活着の遅れなどの影響により茎数の少ない場合は夜間かん水、日中は浅水管理（水深 2~3cm）を行い、茎数を早期に確保しましょう。**必要茎数（360~380本/m<sup>2</sup>）**が確保されたら間断かん水に移行しましょう。

### ◎いもち病

ほ場の「取り置き苗」は、**いもち病の発生源**となるので早めに処分しましょう。

農業環境指導センターのBLASTAMによる葉いもち感染好適条件判定結果では、6月中下旬頃に感染好適条件が出現しています。感染好適条件が出現した日から7~10日後に発病する可能性がありますので、ほ場を良く見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。

### ◎縞葉枯病対策

農業環境指導センターより6/18付でイネ縞葉枯病の病害虫発生予報で、第1世代幼虫のウイルス保毒虫率は“やや少ない”と発表されています。

罹病性品種（コシヒカリ等）、抵抗性品種（あさひの夢・とちぎの星）に関わらず、縞葉枯病のウイルスを媒介するヒメトビウンカの薬剤防除を行いましょう。なお、箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合は同一系統・薬剤の連用を避けましょう。

防除適期　：　普通植栽培　7月上~中旬

### 問い合わせ先

栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0282-24-1101  
HP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html>